

公共スペースから追い出されても「ごみ減量年間 4.2 トン」

2012 年から市庁舎内で不用品を持ち寄つて交換する「エコ広場すし」を 3~4 年間開催し、2015 年に市民交流センター(逗子文化プラザ内)に移った。その後、市の施設を「特定の団体」が使い続けるのはよくないということを理由に市民交流センターが使えなくなった。3,500 人余りの署名運動、100 人集会などを行って反対したが、2019 年に「追い出された」。

その後桜山地区で 2 年間活動したが、場所が不便なこととスペースが狭いことから新たな拠点を探し、現在の場所を借りることができた。7 月から毎週月曜日 10:00~15:00「エコ広場すし@仲町橋(赤い橋)」を開催。この拠点は、「逗子市空き家プロジェクト(都市計画税・固定資産税免除となる)」第 1 号の一戸建て物件の一部屋であり、無償で借りている。オーナーは市民運動に理解のある人で、ご自身も傾聴ボラン

ティア、オレンジカフェなどを主宰。

毎年度活動報告会を開催し、活動報告・決算、活動計画・予算案を決議している。「エコ広場すし」の活動では、月に 6 回~10 回持ち込まれたもの、持ち帰られたものすべてを計量し、毎年詳細に集計し、「ごみにならなかつたもの」を可視化している。2022 年度の年間持ち込み量 4.2 トン、持ち帰り量 3.7 トンにもなる。

「エコ広場すし」のものを来場者が持ち帰る際に寄付していただく小銭が活動の重要なポイントで、「もったいない市資源化協力金」として計上。2021 年度約 30 万円、2022 年度は 36 万円あまりが活動資金となっている。その他かながわ生き活き市民基金からの補助金、神奈川県基金 21 からの奨励賞等で活動を賄っている。

逗子市では生ごみを燃やさず分別することを考えているが、その一環として逗子市商工会と

ともにキエ一口(維持費ゼロの一押し家庭用生ごみ処理容器バクテリア de キエ一口)等の普及に協力している。環境・ごみ問題を串刺しにしてさまざまな団体がつながって「逗子ゼロ・ウェイスト」の活動をつくっている。

(大杉恭子)

